



佐々先生の 海外・帰国 あれこれコーナー

このコーナーでは、いろいろな立場の人たちの声を聞きながら、特に海外に住んでいる保護者の方々に役立てていただける情報や、参考になる考え方などを提供していきます。

取り上げてほしいテーマ、ご意見、ご感想などをお知らせください。皆様の声を聞きながら、このコーナーをできるだけ実際に役に立つものにしていきたいと思っています。連絡は、Eメールで、sasa@keimei.ac.jp までお願いいたします。

啓明学園初等学校 校長 佐々 信行 (さっさ のぶゆき)

ハンブルク補習校、帰国子女受け入れ担当（横浜市）、日本語イマージョン・プログラム教諭（バージニア州）、ワシントン補習授業校を経て、現職。

「地域の教育力」

◆ 地域の教育力

学力低下の問題が議論を呼び、授業時間を増やすことや教師の力量を高めることなどが論議されていますが、知識や思考力にしても、学校の授業の中だけで身につくものではありません。私は、学力低下の本当の原因は、子供たちの生活が貧しくなったことにあると思っています。自然の中で遊びながら覚えた知識、友だちとの関係のなかで自然に身についた社会性、限られた場所や材料で楽しむことを工夫しながら育ててきた創造性、そのようなものが少なくなったことが、子どもたちの力を弱くしているのです。親や先生が教えることだけでは、けっして十分とは言えません。

最近、子どもたちが育つ環境として心配されているのが、「地域の教育力の低下」ということです。昔は町のおじさん、おばさん、お兄さん、お姉さんたちが、近所の子どもを見守ってくれたり、悪いときは注意してくれたり、遊んでくれたりしていたのが、今はあまりなくなってしまいました。家族同士のつきあいも薄くなり、子ども同士がほかの家族の様子からいろいろな学ぶことも少なくなりました。学校に来て、友だちと上手にやっっていけなかったり、小さいことが気になって心配でたまらなかったりという、人間関係の技術が未熟な子が多くなってきたような気がします。



5年生：「かんじき」作りに挑戦

◆ 学校でできる工夫

地域社会が変わって教育力が落ちているのなら、それに代わる工夫をしなければなりません。

啓明学園の工夫の一つは、いろいろな専門家にお手伝いを頼むことです。3年生はカイコの学習をしますが、その時には養蚕や絹糸の研究をしている団体の方に来ていただきます。4年生が多摩川の学習をするときは、地元で川辺の環境や水の生き物を調べている先生を呼びます。5年生が雪の体験学習に行く前には、雪の多い地域で自然観察の指導をしている方々にかんじきの作り方を教えてもらいます。6年生は、親の会のグループ「野点の会」のお母さん方に世話をさせていただいて、修学旅行で絵付けをしたお茶碗を使って茶の湯の学習をします。

一つのこと生活の中で深く関わっている人たちと実際にふれあうことで、知識や技術そのものだけでなく、その裏にある感じ方や考え方も学ぶことができます。

海外の生活について学びたい時は、お父さんやお母さんたちが大きな戦力になります。全校児童の四人に一人は海外生活の経験者です。外国出身のお父さん、お母さんもめずらしくありません。お父さん、お母さん方に頼むと、世界各地のお話を聞くこともできれば、いろいろな国の料理を習うこともできます。

図書館のボランティア、農園整備のボランティアなどで、たくさんのお父さんやお母さんが学校に来てくださっていることは、単に仕事のお手伝いというだけでなく、子どもたちに大人が子どものために働いている姿を見せるという意味もあります。学校で、先生以外の大人に活躍してもらうことは、とても良いことだと思います。

啓明学園 初等学校・中学校・高等学校
国際教育センター

〒196-0002 東京都昭島市拝島町 5-11-15

電話：042-541-1003

ホームページ：www.keimei.ac.jp

Eメール：kokusai_info@keimei.ac.jp